

### 今月のテーマ

## 世界遺産、再挑戦



# 市長の心と手

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

今年夏の世界遺産登録を目指してきた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」について、政府がユネスコへの登録申請をいったん取り下げたことは、もうご存じだと思います。これは、ユネスコの調査機関であるイコモスによる中間報告の評価が厳しかったことを受けたものです。

中間報告の際にイコモスから、「もし今の推薦書のままで7月に開かれる世界遺産委員会に臨んだ場合は、登録は難しい。ただし、ここでいったん取り下げて再挑戦を目指すなら、登録に向けてアドバイスをしてもいいですよ」という提案がありました。

イコモスの提案のとおり、再挑戦に向けた準備に切り替えれば、今後のさまざまなスケジュールから考えて、早ければ平成30年に登録できる可能性があります。一方、判断が遅れると、登録時期は何年も遅くなってしまう。そういう状況の中で、今回の判断は冷静なものだったと思います。

これまで多くの方が力を合わせて登録に向けて準備を進めてきたことを思うと、今年登録できなかったことは本当

に残念です。でもここは気持ちを切り替えて、世界が納得する世界遺産を目指して、登録に向けて準備を進めていきたいと思えます。

\* \* \*

長崎とキリスト教に関する話題は、世界遺産だけではありません。今はまだ大きな話題にはなっていないませんが、マーティン・スコセッシ監督による「沈黙」の映画化も、これから大きな話題になると思います。

スコセッシ監督は「タクシードライバー」でカンヌ国際映画祭の最高賞パルムドールを受賞して以来、多くの名作を残し、10年前に「ダイバーレッド」でアカデミー監督賞を受賞した映画界の巨匠です。

そして「沈黙は、言うまでもなく遠藤周作先生の代表作。その舞台は長崎であり、その縁で、海外に遠藤周作文学館が建てられました。

台湾で行われた映画の撮影は既にクランクアップしたようです。いつ作品が完成し一般公開されるのか、まだ分かりませんが、決定すれば世界にその情報は流れることでしょう。

「沈黙」は、多くの人の心に強い印象を残してきた作品です。だからこそスコセッシ監督も、長い構想の時期を経て、満を持して映画化に臨んだのだと思います。二人の巨匠の組み合わせがどんな映画を生むのか、とても楽しみです。映画の出来だけでなく、監督の視点が日本人の感性と重なるのか、何かが違うのか、といった点も含めて興味は尽きません。今年は遠藤周作没後20年にあたります。

\* \* \*

教会群の登録まで少し時間ができました。この時間を意味のあるものにするのが大切です。地元にいるからこそゆっくり尋ねられる特典を活かして、遠藤周作文学館や、海外、大浦天主堂界隈をはじめ長崎の教会をゆっくり訪ねてみませんか？



満開の桜



広い敷地の公園 ※駐車場はありません



初取材！3人でピース♪

出かけて見る・知るまちのオススメスポット

## ながさきフチ旅行

隠れた桜の名所  
鹿尾川公園

小ヶ倉中学校の田本梨花と倉田あゆみと泉裕介です。今回は市広報広聴課の職場体験で私たちが取材しました！

大山入口バス停から徒歩5分。自然に囲まれたのどかな公園が見えてきます。

ここは、地元の人しか知らないような隠れた名所で、運が良ければ近くの川で鳥が泳いでいるところを見ることができ、趣があります。

また春には桜が咲き誇り、公園を彩ってくれます。

とても広いので花見の際は、シートを広げて桜を眺めながらお弁当というのもいいですよ。

今回の取材では、自然を体験して楽しかった人であれば、単独行動をした結果、疲れた人（私だけ）もいました。

皆さんもぜひ訪れてみてください。